

原 著

揮発性硫黄化合物産生抑制におけるプロポリス含嗽剤 14 日間使用の効果 無作為化クロスオーバー試験による検討

森田 眞司^{1,2)} 濃野 要¹⁾ 山賀 孝之³⁾ 宮崎 秀夫¹⁾

概要：口臭の原因物質である揮発性硫黄化合物（Volatile sulfur compounds：以下 VSC と略す）は主に舌苔中の細菌により産生される。一方、プロポリス抽出物は口腔内細菌の発育を抑制すると報告されている。そこで本実験は、プロポリスエキス含有含嗽剤 14 日間使用前後における舌背に占める舌苔面積および口腔内の気体中の VSC 濃度の比較を行った。

対象は健康な男性 14 名である。被験者 14 名を無作為に 2 群に割り付け、両群とも 0.2% プロポリスエキス溶液およびプラセボを用いた実験に参加する交差研究とした。各対象者は 1 回につき 1 種類の含嗽剤にて、毎食後および就寝前の 1 日 4 回含嗽を行い、これを 14 日間継続した。実験期間 1 週間前より実験終了まで舌清掃を行わないものとした。洗い流し期間は 14 日間とした。試験開始日および 14 日後の同時刻に、ガスクロマトグラフィによる VSC 濃度測定およびデジタルカメラによる舌背写真撮影を行った。

14 日間含嗽前後で比較すると、両群とも舌苔量に有意な変化はなかった。一方、硫化水素およびメチルメルカプタン濃度は、対照群ではいずれも有意な減少はなかったが、試験群においては硫化水素濃度が平均値 (ng/10 ml) で 1.758 から 0.880 と有意 ($p=0.019$) に減少した。以上より、プロポリス含嗽剤長期使用により硫化水素産生が抑制されることが示唆された。

索引用語：揮発性硫黄化合物、含嗽剤、プロポリス